

会報ひまわり

臨時号

目次

- 1: お知らせ〈NPO法人すくすく設立のお知らせ〉
- 2: インタビュー〈当会(NPO法人ひまわりの会)代表〉

お知らせ〈NPO法人すくすく設立のお知らせ〉

この度は、ひまわりの会会報誌をご覧下さしまして誠にありがとうございます。

今回は、ひまわりの会の代表と副代表が参加され設立されました新団体、「NPO法人すくすく」につきましてご紹介をさせて頂き度、臨時会報誌を発行させていただきました。

私がひまわりの会代表の方から、新設団体設立に向けましてのお話を伺いましたのは1年以上前のこととなりますが、その時からこのプロジェクトを大変興味深く思い、陰ながら応援させて頂いておりました。

ですので、ことし2月より正式に稼働の運びとなりましたことをお聞きいたしまして、大変喜ばしく思い、心よりお祝い申し上げたいと思っております。

ところで今回でございますが、私といたしましても大変注目いたしております、「NPO法人すくすく」に関しまして、代表の方へ直接インタビューをさせていただきました。

その内容につきまして掲載をさせていただきましたので、ご一読いただけましたら、大変幸いです。

NPO法人ひまわりの会 事務局

代表インタビュー〉

Q1. 事務局(以下Q)

「NPO法人すくすく」では、どのような活動が行われるのですか？
事業内容の構成について教えてください。

A. 当代表尾串(以下A)

主に「小学生の預かり」「音楽教室」「学習サポート」「発達相談」の4つの活動から成っています。
その中でも小学生の預かりは、川崎市の指定事業で、市が利用料金を負担するということなので、「預かり」の利用については市民限定にはなりますが、ひとつ大きな事業になるのではないかと考えています。

私は、NPO法人すくすくでは理事を勤めていて、臨床活動のメインは発達相談と、スタッフ養成、他の活動全般の個別指導計画を含めたアドバイザーを担当しています。

Q2

「小学生の預かり」については、川崎市の指定事業との事ですが、「NPO法人すくすく」ならではの「小学生の預かり」に特色がありましたら教えてください。

A

ひとつは指導計画に力を入れるということかと思います。

小学生の預かりは放課後クラブ的、つまり学童をイメージしていただけたら分かりやすいかと思います。

ですから、ひまわりの会で行っていることと違う点はありますが、一時預かりの中でも遊びや身辺自立のこと、あるいは集団での活動も行われることになります。

つまり活動があるという事は、子どもに接触し、教えることはたくさんあるわけですから、そういう意味で指導計画は重要になると考えています。

指導計画をちゃんと作るということは、スタッフも働きやすく、何をやればよいか分かり易いということだから、同時にスタッフの働きやすい環境づくりも大事になってくると考えています。

…ということで、特色になるかはわかりませんが、指導計画をしっかり作り、またその中でスタッフをいかに働きやすいようにしていくかということが、私が力を入れているところだと思っています。

Q3

「NPO法人すくすく」を設立されようと思われたきっかけはどのようなことだったのですか？

その理由、或いは設立の意義についてお聞かせ下さい。

A

私は一役員なので、設立したきっかけというものはないのですが、設立メンバーに加わった理由としては、一言でいえば、元々専門的見解が含まれるという意味での、この分野での支援を広めていくという事は大事だと思っていて、それは以前から携わりたかったことだからです。

ひまわりの会での臨床活動は、いわゆる専門職だから、やれる人も自ずと限定され、その結果受けられる人も限定されてくることになります。

でもそれだと広い意味での援助、支援の普及には限界があるのではと…。

これまでの臨床での経験から考えるに、いろんな人が当たり前のように支援を受けられるということが大事だと思っています。

すくすくでは、一時預かりだけではなく、学習サポート、音楽教室があり、小学生のお子さんがメインにはなるけれども、総合的な意味での余暇の充実ということになると思いますので、より良いサービス、専門的見解を交えて行きながらも、当たり前のように子ども達が支援を受けられる点が入って、僕が出来ることをその中でやって行きたいと強く感じました。

そしてもうひとつは、そういうものを普及させていこうと思うのならば、指導員・支援者を養成していく必要があります、そのことにも又、意義があると考えています。

この分野に興味を持ち、やる気がある人がこの分野を支えて行くべきですから、一定のスキルを習得してもらうために、当然養成にも力を入れますが、スタッフが、子ども達に何をすれば良いのかがいかに明確であるかということが、働きやすさにつながるし、それが子どもに帰属していくことになると思います。

社会で生活するということはすなわち個と環境の相互関係ですから、なればこそ利用する子どももスタッフも、お互いにとってより意味があるということが、本当の意味での地域支援だと思っています。だから、すくすくを通してそのことを実現させたいと思っています。

Q4

「NPO 法人すくすく」は、ひまわりの会の先生方が参加され、設立された会ということですが、ひまわりの会とリンクしているのでしょうか？

あるいは考え方において、共通点はありますか？

A

まず、リンクという意味であるのであれば、発達相談がそれに当たると思います。

ひまわりの会では、応用行動分析をベースにした考え方が基本となっていて、すくすくの発達相談でも、アドバイスがすぐに生活の中で活かしていくことができるよう、応用行動分析の視点から対応していきますので、リンクと言う意味ではそこになるのではないのでしょうか？

次に、共通点と言う意味ではやはり、指導計画だと思います。

指導計画というのは、スタッフが働きやすくなり、子どもへの介入が明確化できる効果的なものだけど、もうひとつの意義としては、保護者の方や学校など関係者との連携のツールになるという事だと思います。

ひまわりの会では、指導計画やスーパービジョン(療育の見通し)を提出しますが、それはすくすくの全部の事業にも行っていきたいと考えていますので、いかに指導計画をしっかりと作るかという点はリンクしていると言ってよいかと思います。

指導計画やスーパービジョン(療育の見通し)を提出するひとつの意義は、関連する人間と目線を合わせる、つまり連携していくことにあると思います。

そして、連携は、指導をより効果的にしていくためのものと捉えています。

ですから、すくすくでもこの考え方は大事にしていきたいと考えています。

Q5

NPO法人すくすくにおける、「音楽教室」「学習サポート」についての考え方をお聞かせください。

A.

塾や音楽教室といっても色々な考え方があると思いますので、一概に他の所と何が違うのかはわかりませんが、ただ、何かを教えていくという部分においても、教えた“はず”“つもり”にならないようにするという事は、他の所でもそうかもしれませんが、やはり指導上の基礎としていきたいことです。

そして、NPO法人すくすく内で最も大切に考えていることは自信をつけて帰ってもらうことです。

これまで臨床をやってきた中で、子どもの指導において一番大事だと考えているのは、自尊心を育てることと存じています。

自尊心が、学習意欲、動機付けを高めることだと思います。

でもそれは、子どもの教育には絶対に大事だと思うから、特色というよりは教育上当り前のことでもあると思っています。

それからやはり、先の質問でも述べましたとおり、指導計画を大事にすることも付け加えておきます。

以上

最後までご覧くださりまして、誠にありがとうございました。

私といたしましても、“NPO法人すくすく”の設立意義・考え方につきまして理解を深めることができました、より一層、今後この会がどのように発展していきますのかが楽しみになってまいりました。インタビューにつきましては以上でございますが、今回の会報誌発行をもちまして、ひまわりの会よりお祝いの言葉と代えさせて頂けましたらと思っております。

NPO法人ひまわりの会事務局